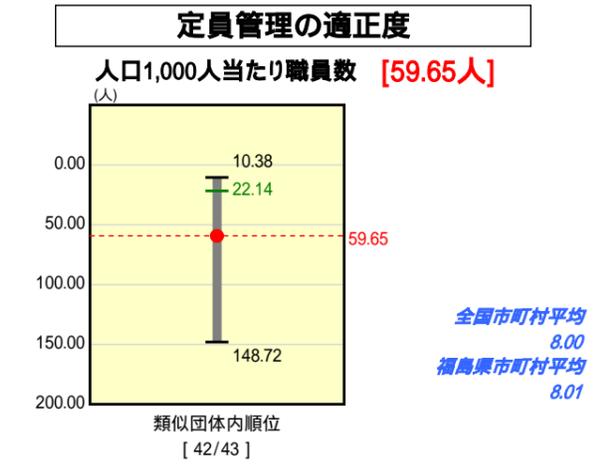
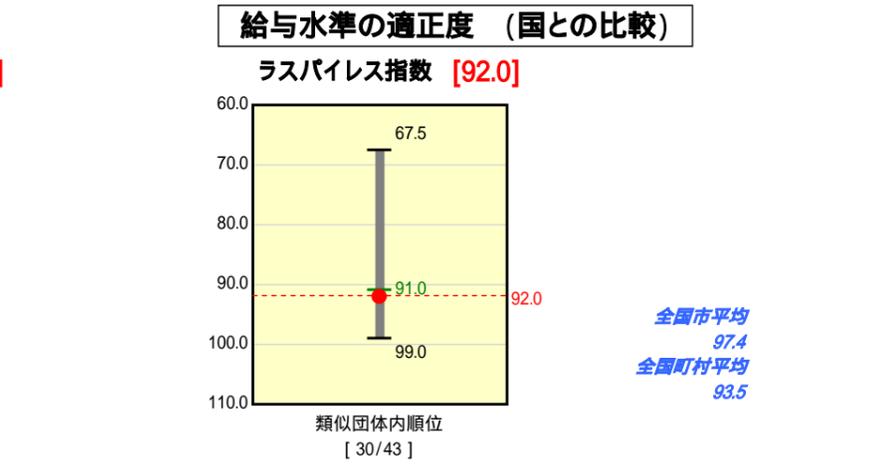
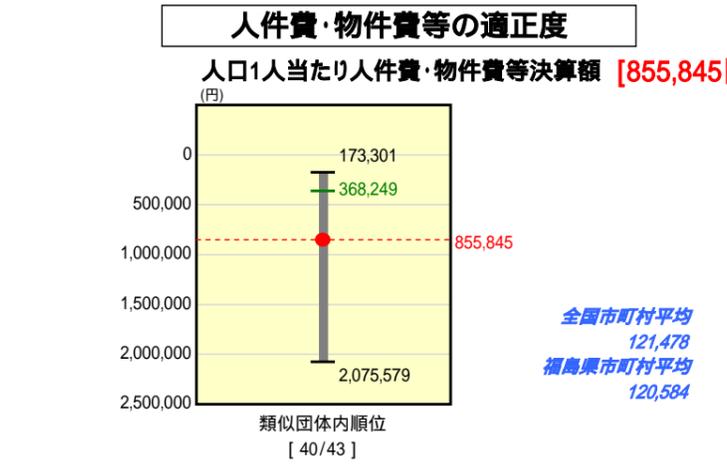
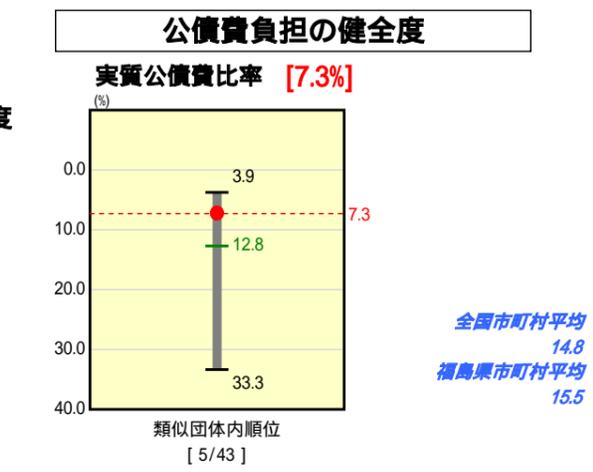
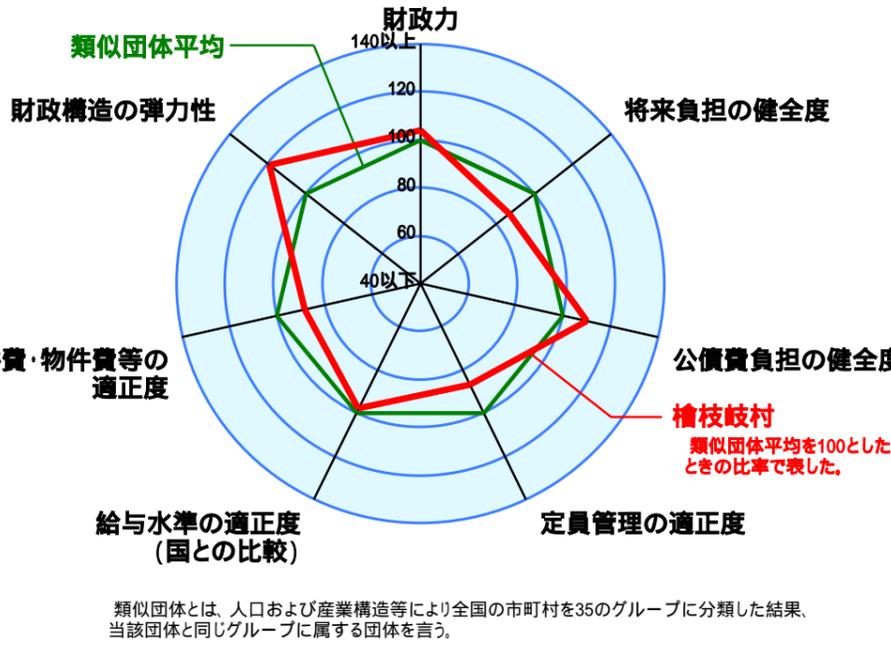
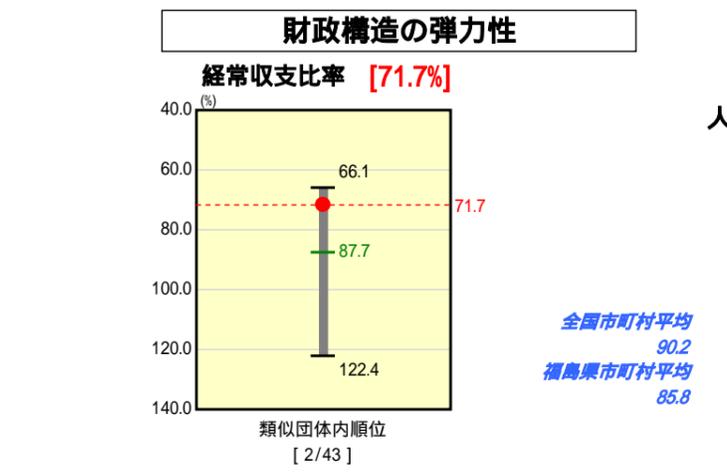
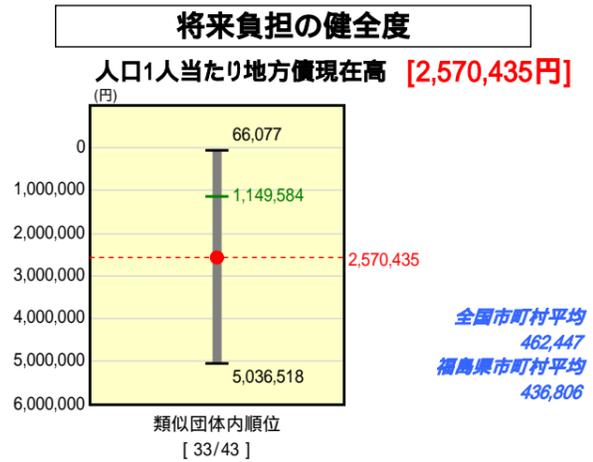
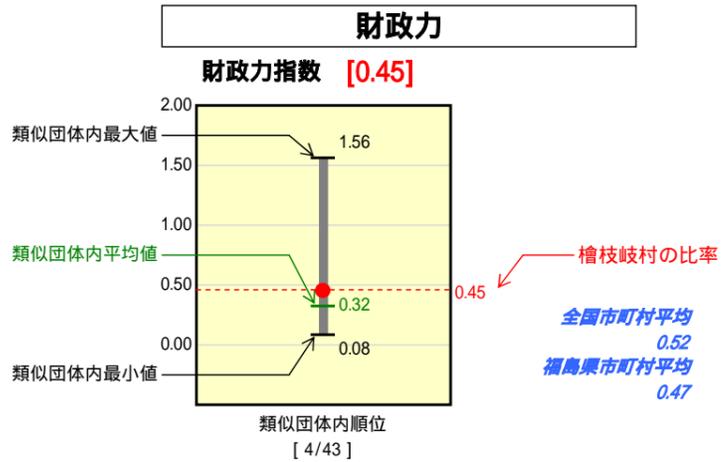


市町村財政比較分析表(平成17年度普通会計決算)

福島県 檜枝岐村

人口	637人	(H18.3.31現在)
面積	390.50	km ²
歳入総額	1,608,039	千円
歳出総額	1,512,611	千円
実質収支	81,697	千円



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

【財政力指数】
16年度に水力発電施設に係る固定資産税の大幅増収により、類似団体の平均値を上回る0.45となっているが、単年度指数でみると16年度をピークに低下傾向にある。課税客体が少なく当該税収以外に安定した歳入確保は難しいため、歳出の見直しを行なうなど財政の健全化を図る。

【経常収支比率】
歳入に占める経常一般財源等の比率は前年度に比べ1.4ポイント上昇したものの、公債費の償還に充当した一般財源の割合が上昇したことにより比率は悪化した。また、類似団体の中では、トップクラスの低い水準であり、財政構造の弾力性は維持されている。今後も現在の水準を維持するために行政改革の確実な推進の下、事務事業の見直しや簡素効率化を進め、経常経費の圧縮を図る。

【実質公債比率】
実質的に公債費に費やした一般財源の総額が標準財政規模に占める割合である当該数値は、類似団体を大幅に下回っており健全性は保たれている。今後も新規地方債の発行を抑えるなど、現在の比率の維持に努める。

【人口1人当たり地方債現在高】
社会資本整備等大きな財政負担を伴うものについては、起債に依存せざるをえなく人口規模の小さいところは必然的に1人当たりの数値が大きくなっていく傾向にあるが、これまでの起債については、地方交付税への算入率が高い有利な起債(過球債70%等)を活用してきたため、実質的な住民負担は少なく将来負担の健全度は保たれている。また、新規地方債の発行は必要最小限に抑えていることなど地方債残高は、年々減少しており、起債に依存することのない財政運営に努めている。

【ラスパイレス指数】
給与水準は、92.0と類似団体平均値とほぼ同じ水準となっている。これまでの特別昇給制度の廃止などを通じて給与適正化に努めてきたが、今後の対策として現在の年功的な要素の給与構造の見直しなども視野にいれながら、引き続き適正化を図る。

【人口1,000人当たり職員数】
地理的に企業立地が図れない状況にあり、これまで行政が直接事業を展開し産業振興や雇用確保を図るなど地域経済の活性化に貢献してきた背景がある。これにより職員数は、類似団体平均値を大幅に上回っている。今後は、行政の役割を再点検し、指定管理者制度等の活用により定員の削減に努める。

【人口1人当たり人件費・物件費等決算額】
これまで行政改革を通じて事務事業の見直しを積極的に進め、当該経費について抑制に努めてきたが人口規模が極端に小さいため、1人当たり換算すると、どうしても数値が大きくなる傾向にあり、一概に適正かどうかという判断が難しい状況である。